

鶴指し橋つるさき

今では昔の面影はありませんが、羽生は、原野や湿地の多いところでした。湿地を好む動植物は勿論のことですがいろいろな小鳥なども、大自然に恵まれ、たくさん生息していました。

お殿様たちは、羽生の地を大変たか狩りなどのよい遊び場にしていました。

藤井上組（井泉）に、鶴指し橋があるのも、その時の名残りです。

たか狩りに来られたお殿様が橋の上から四方を見渡し、湿地で翅を休めている美しい鶴に見とれながら、指さして「あそここの鶴をとらえてみよ」と、言いつけました。早速にして、たか匠は首尾よくとらえた鶴を、お殿様に差し出すと大変よろこばれ、目を細めて「ほう、よは満足じゃぞ」と言われ、ご機嫌のお殿様は、腕前のよさを高く評価し大喜びでした。

地元の人たちは、鶴に満足されたお殿様の話しを、いつまでも大事な言葉として、その橋を鶴指し橋と言うようになりました。

